特集

NOW 臨床工学部
各地の特色ある組織づくり

編集責任
横浜市立市民病院 臨床工学部
相嶋一登 AISHIMA, Kazuto

現代はVUCA時代といわれている．VCUAとは"volatility（変動性）" "uncertainty（不確実性）" "complexity（複雑性）" "ambiguity（曖昧性）"の頭文字をとったものであり，社会環境の変化が速く，我々にとって未来予測が難しくなる状況を表している．

日本は少子高齢社会の進展により，生産年齢人口が減少し，つまりは医療従事者のなり手が減少していくなかで，今後30年程度は，高齢者人口が増加を続けるため医療需要もこれに連動して増加を続ける．医療の需要と供給のミスマッチがさらに拡大を続けることが予想される．医療業界では，医師の時間外労働時間の上限設定が行われ，これを進めるためタスク・シフト/シェアが進められている．このような状況に対応していくため，我々医療従事者も仕事の進め方を見直す転換点に来ている．

医療安全意識の高まりや社会の要請により，臨床工学技士の業務範囲は拡大し，病院に勤務する臨床工学技士数はこの20年間で大きく増加してきた．かつては血液浄化，体外循環がおもな業務範囲であったが，現代では集中治療，心臓カテーテル，内視鏡，麻酔補助など病院内での業務範囲は拡がりを見せている．すると，次に直面するのは臨床工学部門の運営である．規模が拡大することでマネジメントはより複雑化し，医療安全や職場環境，人間関係などさまざまな課題への対応が必要となってくる．

本特集では，さまざまな地域特性，規模の病院における組織マネジメントについて，臨床工学部門責任者の皆様に執筆いただいた．医療機関は地域に要請に応えることが使命であるから，臨床工学技士の仕事もこれを念頭に考えなければならない．

先人が築きあげた臨床工学技士制度がさらに発展し社会に大きく貢献すること，そしてVUCA時代において臨床工学技士が仕事，役割に誇りをもち，さらに発展し続けられるようにするため，臨床工学部門の組織運営の重要性はますます重要になってくるはずである．

マネージャの皆様は，本誌で紹介された医療機関の取り組みを参考にしながら，よりよい臨床工学部門の構築を進めていただけると幸いである．

2026/09/14 09:58:08

編集責任
自治医科大学附属さいたま医療センター 臨床工学部
百瀬直樹 *MOMOSE, Naoki*

業務範囲が広い臨床工学技士であるが，その多くが病院で勤務している．しかし病院そのものも施設の形態や規模，所在地に伴う環境は大きく異なり，そこで働く臨床工学技士の業務もそれぞれ異なるはずである．そして今日，臨床工学技士に求められる仕事や部署の在り方，医療機器の種類や管理の方法も異なってきており，臨床工学部の改編も必要になってきているのではないだろうか．

たとえば，昨今の医師の働き方改革に伴い，医師の業務の一部は臨床工学技士が行えるように法律の改正が行われた．これによって，臨床工学技士が内視鏡の操作の介助やカテーテル類の抜去，麻酔科医の補助などを行うようになってきている．また，看護師不足を補うため，従来看護師が行っていた手術室の器械出しを，臨床工学技士が行うようになった施設もある．人口減少に伴い病院施設も減少していることで，医療を支えるべき地域の管轄範囲が拡大し，臨床工学技士の業務形態が変化している施設もある．地震や噴火・台風などの災害の多い日本では，過去の災害経験を踏まえて災害時の医療の維持のため医療機器管理にも工夫が必要になっている．特に新たに病院施設を作る場合や，臨床工学部を立ち上げる場合には，上記のような事柄への配慮を求められるであろう．

そこで今回の特集では，特徴的な病院施設として「多様な業務を行うため技士数のきわめて多い病院」「人口希薄地帯で広域・地域医療を支える病院」「被災から災害対策に力を入れる病院」などから，それぞれの施設の特徴や業務内容を紹介していただいた．

また新設の病院・部署の新設の経験者からも，臨床工学技士の部署の立ち上げの課題や工夫を紹介していただいた．

この企画によって，臨床工学技士や部署の多様性や工夫を知ることで，自らの組織や個人の働き方を見直すきっかけになれば幸いである．

2026/09/14 09:58:08